



実践団体・プラン基本情報

実践団体の基本情報

記入日	西暦 2024 年 1 月 19 日 (2023 年度のチャレンジプラン)
プラン名	災害時を想定した車中泊プロジェクト (プチ家出の練習♡)
実践団体名	出張! ふれあいルーム
代表者名	幾島浩恵
電話番号	090-6321-1940
メールアドレス	hiroe.ikushima@gmail.com
実践団体の説明	防災とは本来はあたりまえもので、日常のあらゆることが「防災=生きるチカラ」に繋がっていることを知り、防災を楽しんでいる団体です。LINE や ZOOM を使って、同日にそれぞれの場所で災害時を想定した車中泊訓練をしたり、互いの得意分野を教え合うなど、情報交換をしています。それぞれが所属している団体との新たな繋がりも増えました。同じ地域で頑張る仲間も大切ですが、遠くの仲間ともこのように繋がることで、活動の幅や可能性が広がっています。
所属メンバー	防災に興味があってもなくても、これらの活動を面白いと思ってくれる大人と親子・紀州くちくまの熱中小学校「みんなでやればこわくないクラブ」部員
活動の本拠地	和歌山県西牟婁郡上富田町 山口県から茨城県までの、今までのチャレンジプラン繋がり の仲間を含む
活動開始時期・結成時期	2020 年 2 月
過去の活動履歴・受賞歴	2023 年度 1.17「ぼうさい甲子園」フロンティア賞

プランの基本情報

プランでの実践主体	1. 学校・教育関係 3. 保護者・PTA 4. 地域組織 5. 国・地方公共団体 7. 企業・産業関係 8. ボランティア 9. NPO 13. 個人 14. その他(医療・福祉関係者)
プランの運営側の人数(実数)	約 7人
プランの活動地域	和歌山県内(田辺・西牟婁郡)中心



	<p>LINE を使った災害時を想定した車中泊訓練を毎月 1 回以上実施（真夏・真冬は単独で実施）</p> <p>ZOOM を使った勉強会や情報共有、会議などは全国のメンバーやそのほか興味ある人と一緒に行った。</p>
プランの防災教育の対象者	<p>3. 小学生（低学年） 4. 小学生（中学年） 5. 小学生（高学年） 8. 大学生 10. 教職員・保育士等</p> <p>11. 保護者・PTA 12. 地域住民 13. 企業・組織</p> <p>14. 女性 15. 障がい者 16. 支援学校等児童生徒</p> <p>17. 高齢者 19. 防災関係者</p>
防災教育の対象者の人数（実数）	約 200 人（車中泊か説明会に参加してくれた人数含む）
プランが対象とする災害	<p>1. 地震 2. 津波 3. 風水害 4. 土砂災害 7. 犯罪</p> <p>8. 火災 10. その他（具体的に：原発事故）</p>
プランの活動目的	<p>1. 防災意識を高める 2. 災害を想定した訓練</p> <p>3. 防災に関する知識を深める 4. 遊び・楽しみの要素を入れた防災 5. 災害を疑似体験 6. 災害に強い地域をつくる</p> <p>7. 災害対応能力の育成 8. 防災に役立つ資料・材料づくり</p> <p>9. 防災に関する技術の習得 10. その他（仲間作り・楽しむ）</p>
対象者が身につく知識・技能等	<p>1. 地震・津波 2. 気象災害 3. 災害時に発生する課題・影響</p> <p>4. 過去の教訓が教える対応策 6. 平時に行う被害を出さないための備え</p> <p>7. 災害発生時に身の安全を確保するための行動 8. 災害対応・復旧・復興時の立ち直りに向けた助け合い</p> <p>9. その他（応急手当・車のメンテナンス）</p>
プランの活動形態	<p>1. イベント・行事 2. 講習会・学習会・ワークショップ</p> <p>3. 講演会・シンポジウム 4. 総合的な学習（探求）の時間</p> <p>8. 学校内の諸活動 10. 校外学習・移動教室 12. 体験学習</p> <p>13. 避難・防災訓練 17. その他（災害ボランティア）</p>
プランでの連携先	<p>1. 学校・教育関係 4. 町会・自治会 5. 自主防災組織</p> <p>6. 消防団 7. それ以外の地域組織 8. 国・地方公共団体</p> <p>11. ボランティア 12. NPO 16. 個人</p>
実践にかかった金額	30 万円



プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	大まかなプランは4月までに立案し、出来そうなものから実施（個人、他団体メンバーとしての活動を含む）	依頼等があった時	<p>◎車中泊事前説明会（11月まで毎月実施）</p> <p>◎災害時を想定した車中泊訓練（3月まで毎月実施）</p> <p>①あっそ de 駅中 BOSAI 教室（新聞取材）</p> <p>①みなべ町防災イベント手伝い</p> <p>①防災キャンプ紀南（ブルーシートテント泊）</p> <p>①車中泊（自宅外での車中泊）</p>
5月	役場防災担当と調整		火おこし実験他ソーラックカーなど各種実験 避難所宿泊体験
6月	急遽行ける仲間と参加 毎年 年5回実施予定 子どもエコクラブの活動		<p>①②③海南市ボランティア</p> <p>①きっず BOSAI くらぶイベントスタッフ</p> <p>①児童館での防災教室</p>
7月			<p>①紀の川市防災セミナー依頼</p> <p>②きっず BOSAI くらぶイベントスタッフ 救命講習依頼</p> <p>①NHK ラジオ出演 車を使った各種実験（車中での調理など）</p> <p>②あっそ de 駅中 BOSAI 教室 ソーラークッカーイベント依頼</p>
8月	上富田消防分署		<p>②児童館での防災教室</p> <p>着衣泳体験（富田川にて）</p> <p>保育士対象研修依頼</p> <p>医療系大学職員研修依頼</p> <p>②③車中泊（自宅外での車中泊）</p> <p>③あっそ de 駅中 BOSAI 教室</p> <p>ZOOM 勉強会 & 交流会</p> <p>①幼児と保護者対象研修依頼</p> <p>出張！ふれあいルーム ZOOM 活動報告会</p>
9月			<p>①171 体験</p> <p>②幼児と保護者対象研修依頼</p>



			<p>新聞取材（赤ちゃんとお母さんの避難リュック）</p> <p>田辺市避難訓練手伝い</p> <p>民間団体防災講座依頼</p> <p>①防災ストラップ作り依頼</p> <p>①社協防災講座依頼</p>
10月	<p>「株）カスタネット」と</p> <p>「よんなな防災会」</p> <p>ヤタガラスプロジェクト</p> <p>上富田消防分署</p> <p>消防団女性分団と合同</p>		<p>②171 体験</p> <p>車中泊・避難所体験 in 宮津</p> <p>④⑤車中泊（自宅外での車中泊）</p> <p>防災ヤタガラス本宮大社奉納</p> <p>③きっず BOSAI くらぶイベントスタッフ</p> <p>「車両破壊女子軍団 Part2」車両からの救出脱出</p> <p>②みなべ町防災イベント手伝い</p> <p>上富田町防災訓練参加（車中泊仕様の車両展示）</p>
11月	<p>田辺市後援</p> <p>消防団女性分団</p>		<p>田辺市「めざせ 100 台車中泊」スタッフ</p> <p>かみとんだ健康福祉と文化の祭り出展（防災工作）</p> <p>②防災ストラップ作り依頼</p> <p>②社協防災講座依頼</p> <p>②NHK ラジオ出演</p> <p>消防団での車中泊説明会</p>
12月	<p>南紀白浜 FM ビーチステーション</p>		<p>小学校・支援学校防災教室依頼</p> <p>②防災キャンプ紀南（野宿）</p> <p>FM ラジオ収録依頼</p> <p>高齢者施設防災セミナー手伝い</p> <p>幼稚園教諭防災研修依頼</p>
1月	<p>JSS「日本避難所支援機構」</p>		<p>1.17 フォーラム「看護師の阪神淡路大震災」</p> <p>小学校・中学校での防災教室依頼</p> <p>③児童館での防災教室</p>
2月			<p>④きっず BOSAI くらぶイベントスタッフ</p>
3月			<p>町内防災イベントスタッフ</p> <p>③幼児と保護者対象研修</p>



実践したプランの内容

プラン全体の概要	<p>災害時の車での避難は推奨されていませんが、車社会に暮らす高齢化地域の私たちは、車を選択する可能性が高いと思われます。</p> <p>あえて、「災害時に車を使うこと」を選ぶのであれば、いきなり来る地震と事前避難が可能な豪雨災害を分けて考え、どんな知識と準備が必要か、車を使ってはならない状況を見極め、実際に何度も試し、共有することで、車での避難時の事故や、孤立、車中での災害関連死となることなく安全、快適に過ごすことを目的としています。</p>
プランの「チャレンジ」の結果	<p>1年間毎月1回以上、自宅の庭やその他の場所で車中泊を続けることで、夏の暑さや虫対策、冬の寒さや結露対策について、身近にあるものを利用して、ある程度何とかする方法が分かってきた。</p> <p>避難に「車」を使用する可能性があるのならば、少なくとも、鍵を定位置に固定して置き、発災時に必ず持ちだせること、ガソリンはいつも半分以上をキープすることを周知することで、避難を諦めている人にも逃げられる可能性があることを伝えられる。</p> <p>また、車中泊に役立つ「命を守る車中風呂敷」だけでなく、様々なリストを作り、冬と夏の注意点や、外出時など家から持ちだせないことも考えて、普段から車中に最低限の必要物品を備えておく事、車中に置けるものと危険な物、どうしても場合はどのように車載すれば良いか、可能な限り、より安全になる方法を探して、パワーポイントにもまとめることができた。今後、災害時における車中泊について検討している人に説明できるツールが完成した。</p> <p>車のトラブルやメンテナンスにもある程度対応できる。</p> <p>車中泊におけるトイレ問題に対し、様々な方法を試すことに</p>



	<p>より、車内でも車外でも安心して排泄、保管できるようになった。</p> <p>車がなく（バイクユーザーなど）どうしても避難所に行けない場合の野宿の方法についても、試すことができた。今後も、アウトドア関係の人とも協力して、より安全快適な避難生活が過ごせる方法を探したいと思う。</p>
--	---

実践内容・方法・成果	<p>①車中泊について勉強する</p> <ul style="list-style-type: none">・車中泊のTKB+ICP(情報・快適さ・プライバシー)・絶対に必要なもの（ガソリンと車のキー）・夏の虫&暑さ対策(夏に車中に放置しては危険な物を知る)・冬の結露&寒さ対策・車内で電気を得る方法・車中泊中に起こる危険について・エンジンをかけてエアコンを使う時の注意・車中泊中のトイレ・緊急時の車両からの脱出&救出方法・車のトラブル対策（いざと言う時のために！）・車中泊中に配慮していること・（事前避難できるが）豪雨災害時の車の危険について・車中泊が推奨されていない理由 <p>②とりあえず「プチ家出♥」勢いに任せて車で家を飛び出したと設定。気候の良い時に、スマホとサイフ程度を持ち、そのままできるだけ家の近くで車中泊してみる。人目が気になる、寝心地が悪い、暑い、寒いなど、不快に思う事を書き出し、適当な所でリタイアして良い。</p> <p>②家から必要と思われる物を持ちだす時間が十分にあると設定した訓練。①で不快に感じたことを解消するための物を万全に準備して持ち込み、使用してみる。可能であれば、車を目隠しして、車内でトイレを使用してみる。</p>
------------	--



- | | |
|--|---|
| | <p>③仕事などで外出中に被災し、車中泊することになった設定。今車中にあるモノだけで寝てみる。コンビニ等には頼らない。トイレも車中で済ませる。</p> <p>④車が何等かの理由で使えないと設定。ブルーシートやゴミ袋程度の露除けで野宿。</p> <p>⑤普段から車に積んでおくものを決め備える（危険な物を正しく把握する）、自分にとっての「持ちだしリスト」を制作し、玄関等に設置、車から急遽退避しなければならない時（津波など）に車内から持ちだす物リストを作り、車中に備える。</p> |
|--|---|



プランにおける工夫：プランを実践する上で、下記について具体的に工夫をしたことはありますか。

該当するものについて具体的な例を挙げながら記入をしてください。

この項目は任意項目であり、全てを埋める必要はありません。当てはまるもののみ記入してください。

1.【準備段階】 <u>運営側の担当者を決める際の工夫</u>	基本的に自分で企画準備する。イベントの希望があれば提案者と一緒に進めた。
2.【準備段階】 <u>地域のキーパーソンと連携する際の工夫</u>	それぞれの場所のキーパーソンと繋がりのある人が多いため、スムーズに自治体や市町村、学校と繋がることができた。
3.【準備段階】 <u>運営側を組織化する際の工夫</u>	出張！ふれあいルームでは車中泊やそれに関すること、勉強会をメインに活動したが、メンバーそれぞれが他のグループにも所属しているため、活動をお互いに手伝った。
4.【準備段階】 <u>対象者や対象地域の範囲を決める際の工夫</u>	依頼があれば基本的にはどこへでも「出張！」する。ZOOMが使えるようになったことで、遠方の人とも交流が出来るようになった。
5.【準備段階】 <u>準備時間を確保する際の工夫</u>	ZOOM 会議で決めたことを各自で準備する。時間節約のため、極力集まったの準備はしない。
6.【準備段階】 <u>活動場所を確保する際の工夫</u>	市民活動センターに登録することで、無料で部屋を借りることができる。市町村に目的を伝えると、無料で借りる事が出来る公民館等もある。それぞれの場所（自宅の駐車場など）での車中泊なので、基本的には場所を借りずに実施できる。
7.【準備段階】 <u>活動資金を確保する際の工夫</u>	防災教育チャレンジプラン活動支援金と、防災講演依頼時の謝金を利用。
8.【準備段階】 <u>知識や情報を収集する際の工夫</u>	ラインや ZOOM での情報共有、勉強会参加など。車中泊で災害支援をしていた方からの情報提供。
9.【準備段階】 <u>教育・訓練プログラムや教材を作成する際の工夫</u>	チャレンジプランホームページ、その他 WEB サイト参照。あえて、「危険」と言われていることや自分達だけでは実施できないことを、消防など専門知識がある人に指導してもらいながら体験した。
10.【実行段階】 <u>経験豊富なアドバイザーを確保する際の工夫</u>	消防、消防団、町の防災担当者、メンバー各自がそれぞれアドバイザー的な存在である。
11.【実行段階】 <u>地域の理解を得て関係機関と連携する際の工夫</u>	行政、土地を持っている法人等に目的を伝えて場所の提供などの協力を求めた。



夫	
12. 【実行段階】 <u>活動時間を確保する際の工夫</u>	早めに予定を決めてメンバーが参加しやすい日を押さえる。
13. 【実行段階】 <u>活動経費をなるべく抑える際の工夫</u>	基本的に「身近にある物で何とかする」がモットーなので、本来の使い方だけでなく汎用性の高い物を使用した。
14. 【実行段階】 <u>他の実践団体と交流する際の工夫</u>	以前からの繋がりがある団体だけでなく、それぞれで繋がりがある団体を紹介してもらったり参考にさせてもらったりした。チャレプラ車中泊⑦⑧は、チャレンジプラン関係者にも参加を求めたが、人数は少なかった。もっと交流したかったが時間不足だった。
15. 【継続段階】 <u>後任者を育成する際の工夫</u>	子連れの若いお母さんや、車中泊に興味関心がある学生も何名かいるので心強い。
16. 【継続段階】 <u>活動で得られた知識・経験を、かたちにまとめる際の工夫</u>	体験、実験したことをレポートにしてLINEでメンバーに情報提供していたが、6月頃から多忙のため出来なかったのが反省である。
17. 【継続段階】 <u>活動の成果を外部に発信する際の工夫</u>	私はWEBを使うのが苦手でも何と出来ていないが、メンバーが自分のサイトで発信してくれている。
18. 【継続段階】 <u>活動内容を見直す際の工夫</u>	短時間でも反省会を持つようにした。(LINE 車中泊なら、そのままが記録や反省会となる)
今後の活動予定・今後の展開	知人が Facebook で「車中泊女子部」グループを作ってくれた。彼女は数か月にわたり、東日本大震災の被災地を車中泊しながら支援した経験を持っている。レジャーとして車中泊を楽しんでいる女子が集まることで、災害時には困難なことが多い女性にとっての車中泊をより安全快適にするためのアイデアをたくさん得ることが出来そうでとても楽しみだ。車中避難は、安全な場所であれば災害時のみ場所を開放してもらえれば、避難所のように建物や寝具、トイレがなくても、自分で備えが出来ている人ならば車中避難できる。そんな場所が増えてくれたら、分散して車中避難されるよりも人数や健康の管理もしやすく、情報や支援物資を届けやすくなる。



	<p>そのためのルールと場所づくりがこれからの災害に向けては必要だと思われる。(上富田町内で交渉を進めていく) 車で避難生活を送るならば、日頃のメンテナンスやちょっとしたトラブルにも対応できるようになりたい。消防や車のディーラーの協力を得て、知識を得る体験をこれからも継続していきたい。</p> <p>避難タワーは訓練と災害時のみに使われることが多く、それはとてももったいなイと思う。普段から公民館のように開放して、どこにどんなものがあるのかを地域の人が把握している方が災害時により安心できるはずだ。イベント会場、避難所体験として使わせてもらえないか交渉してみたい。</p> <p>災害時に多くの負傷者が医療機関に集まるが、そこでの様子についてあまり伝わってこない。医療者、介護福祉関係者の被災経験がある人と匿名でも良いので、本音を語り合える場を作りたい。</p>
<p>その他 (PRポイントなど)</p>	<p>車中泊のみならず、災害時にいつも取り上げられる「トイレ問題」各種トイレを実際に試すのは簡単なのに、あまり試されていないことが問題だと思う。</p> <p>自分の土地を使った正しい野ぐそ (葉っぱで拭いて埋める、屋内で排泄してから屋外に埋めるも含む) についてもっと極め、し尿ゴミとしてではなく排泄物を土に還せるようになることを目指したい。(「葉っぱ野ぐそ女子軍団」で実験)</p> <p>トイレットペーパーを使わず水で洗い、個人用タオルで拭くなど、インド式の紙を使わない排泄を自宅では目指したい</p> <p>生理用品は実は本来の目的以外にも汎用性が高い、そのための勉強会を開くことで、男性にとっても身近な物になってほしい。</p>